

「ユスラウメ」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

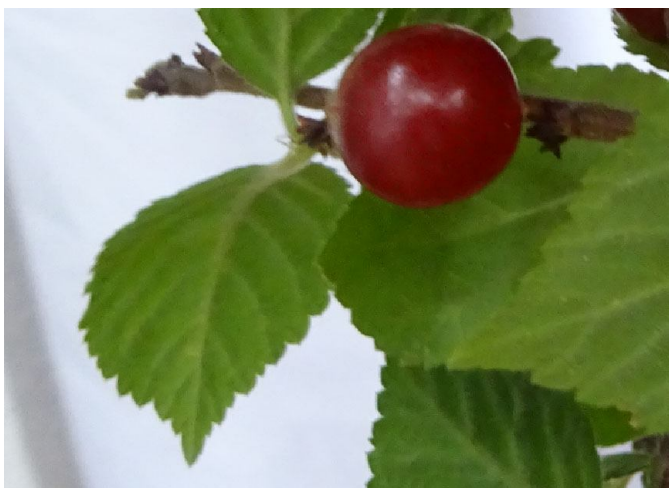
ある朝、別のクラスの5年生の子どもが、新聞紙に包んだ植物を持って、質問に来た。

「先生、先生、これ何?おばあちゃんちの庭にあってもらってた。名前を聞いたんだけど、忘れた」

なかなか無礼千万な物言いであるが、これも現代5年生児童の特徴だろう。



新聞紙を解くと、中から緑の葉と赤い実のついた枝が現れた。一目で「ユスラウメ」とわかった。



ユスラウメ *Prunus tomentosa* は、バラ科サクラ属の樹木である。葉の特徴は、まさにサクラに似ている。もともと桜の旧字体である「櫻」の字は、このユスラウメを意味するという説もあるという。灌木(低木)なので華やかさはないが、春に咲く花はサクラにそっくりで、大変美しい。



実(じつ)にたわわに実っている。この実(み)は食べることもできる。このユスラウメにはちょっとした思い出がある。以前この学校にいらした理科の宮崎幸子先生が、ご退官の時に教材園に植えてくださったのがユスラウメだった。毎年初夏にたくさんの実をつけて、子どもたちが休み時間にとって食べていたのを覚えている。その後、倉庫の設置でいつの間になくなってしまったのが、非常に残念である。



実(み)はまるでミニトマトのように、実(じつ)にみずみずしい。子どもたちは「かわいい!」と言っていた。サクランボのような味がした記憶がある。私は1個もらって味見をすればよかったと思った。